

令和7年度の教育プログラム認定（学部）について

山形大学理事（教育担当）

出 口 毅

令和7年度の各学部等の教育プログラムについては、以下の2つの観点に基づき、全てのプログラムについて検証作業を行った結果、適切であると判断し、令和7年度の教育プログラムとして認定する。

【観点1】

教育プログラムが、各学部等のDPやCPに沿ったカリキュラム編成となっているか？

- ・DPやCPに沿った適切なカリキュラム編成であると判断する。

【観点2】

教育プログラムが体系的に編成され、それに沿った開講科目の配置となっているか？

- ・体系的に編成され、適切であると判断する。

【教育プログラム認定の総括】

- ・カリキュラムチェックリストの作成により、各授業の達成度レベル等が可視化できている。
- ・理事特別補佐からの検証報告を受けて、改善点や検討すべき点について各学部等において再度検討され、必要に応じて修正を加えた上で、適切に教育プログラムの認定が行われている。
- ・今回で各学部等の教育プログラム検証作業は、養護教諭特別別科を除き9回目となるが、PDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントが確立されている。
- ・前回の各授業のDP及びCPとの対応関係や達成度レベルの指標、履修者数等のデータを基に今回のカリキュラムチェックリストの作業が進められており、適切な授業配置が行われている。

【会議での審議状況】

令和6年11月11日及び令和7年1月20日	教育推進機構運営会議（協議）
令和6年11月20日及び令和7年1月23日	役員会（協議）
令和7年2月12日	教育研究評議会（報告）

令和7年度の教育プログラムの検証結果について（学部）

学部等	学科	コース	観点1	観点2	認定の可否	統括教育ディレクターからの報告等
人文社会科学部	人文社会科学科	人間文化コース	○	○	○	一部の科目について、科目名称を修正及びDPと科目の対応関係の誤記を修正した。
		グローバル・スタディーズコース	○	○	○	
		総合法律コース	○	○	○	
		地域公共政策コース	○	○	○	
		経済・マネジメントコース	○	○	○	
地域教育文化学部	地域教育文化学科	児童教育コース	○	○	○	自由記述での指摘を受け、一部の科目について、授業の到達目標及び開講学年の誤記を修正した。また、CPと科目との対応を見直し修正した。
		文化創生コース	○	○	○	廃止科目の削除漏れがあったため、リストから削除した。
理学部	理学科		○	○	○	
医学部	医学科		○	○	○	
	看護学科		○	○	○	一部の科目について、CPと授業形態との対応を再確認し修正した。
工学部	高分子・有機材料工学科		○	○	○	
	化学・バイオ工学科		○	○	○	
	情報・エレクトロニクス学科		○	○	○	
	機械システム工学科		○	○	○	
	建築・デザイン学科		○	○	○	
	システム創成工学科		○	○	○	一部の科目について、「授業の到達目標」と「学位授与方針」(DP)との対応関係の表記を修正した。
農学部	食料生命環境学科	アグリサイエンスコース	○	○	○	自由記述で指摘のあった学科共通科目の一部科目のシラバス掲載方法について、今後検討する。
		バイオサイエンスコース	○	○	○	
		エコサイエンスコース	○	○	○	
養護教諭特別科			○	○	○	一部の科目について、名称を修正した。

カリキュラム・チェックリスト例

教育課程の編成・実施方針(CP)														学位授与方針(DP)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
山形大学及び地域教育文化学部の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に沿って、児童教育コースでは、学生が体系的かつ主体的に学修できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。														山形大学及び地域教育文化学部の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、児童教育コースの各プログラムでは基盤共通教育及び学部の専門教育を通じて、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「学士(教育学)」の学位を授与します。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
1. 教育課程の編成・実施等 (1) 基盤教育においては、1年次を中心に、「導入科目」、「基幹科目」、「教養科目」、「共通科目」をバランスよく履修し、広い視野・教養を得る。また、「共通科目」では、3年一貫教育としてコミュニケーション・スキル1(英語)を履修し、英語活用能力の向上を促す。 (2) 学部専門教育においては、専門教育科目を、「中心科目」、「基礎科目」、「専門科目」、「発展科目」の4つのカテゴリーに分類し、体系的・段階的に学ぶことができるように配置する。 (3) 「中心科目」は、学部共通科目として位置づけ、地域貢献・地域創生を実践するための基本となる科目群と、専門教育で学んでいる知識・技能を地域課題の解決を目指して総合的に活用し企画・運営・実行していく実践演習群の「フィールドプロジェクト」とで編成する。 (4) 基盤共通科目・専門教育科目の一部を「自由選択科目」として配置する。 (5) 「児童教育コース」に2つのプログラムを配置する。 ○小学校教育プログラム:小学校教育のスペシャリストの養成。小一種免許状(必須)、中・高一種免許状(国語、社会、数学、理科、英語。高校社会は地歴)、幼一種免許状及び特別支援一種免許状が取得可。 ○チャレンジプログラム:教職大学院進学を前提にした6年一貫教育。小一種免許状(必須)。														1. 豊かな人間性と社会性 (1) 教育に対する使命感と情熱、問題意識を持ち、積極的に学び続けることができる。 (2) 教師の責務の重大さに対する自覚に基づき、高い倫理観と責任感を伴った行動ができる。 (3) 多様な意見を引き出ししながら目的の共有を図り、取りまとめるファシリテーターとして地域の教育課題の解決に取り組むことができる。 2. 幅広い教養と汎用的技能 (1) 学校教育及び学校と地域の連携についての基本的知識がある。 (2) 教科間連携、幼小中高連携、インクルーシブ教育を意識した指導力がある。 (3) グローバルな課題とのつながりにおいて地域課題を捉えた教材開発力を身に付けている。 (4) 子どもの成長と学校教育を支える様々な人々や組織との連携を図るためのコミュニケーション能力がある。 3. 専門分野の知識と技能 (1) 国や地域の教育政策の動向に基づき、地域の教育を支えるために必要な専門的知識や技能を身につけている。 (2) 地域の教育を支えるために必要な専門的知識を基盤とし、さらに「チーム学校の一員としての教員」に必要とされる知識や技能を活用しながら教育課題の解決に取り組むことができる。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
授業科目名 (領域)	単位数	開講形態	開講学年	ナンバリング	令和4年度の履修者数	令和5年度の履修者数	時間割コード	教育課程の編成・実施方針(CP)										授業の目的	授業の到達目標	学位授与方針(DP)										授業担当		授業種別	開講形態 (共同主、共同副(主プロ名))	チェック欄																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
								1 (1)	1 (2)	1 (3)	1 (4)	1 (5)	2 (1)	2 (2)	2 (3)	3 (1)	3 (2)			1 (1)	1 (2)	1 (3)	2 (1)	2 (2)	2 (3)	2 (4)	3 (1)	3 (2)	種別 (主・副・兼・非常勤・新採等)	氏名	必修・選択・自由・免許・資格・他	到達目標の明確性		授業目的及び目標がDPと対応しているか	授業目的及び目標がCPと対応しているか																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
男女共同参画社会と教育	2	講義	2	EFT2001	63	58	21500																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	

各科目について、CP及びDPとの関連性を◎○△で表記。

- ◎ DP達成のために、特に重要な事項
- DP達成のために、重要な事項
- △ DP達成のために、望ましい事項

各科目について、以下の習熟度を追記。

- I Introduced＝導入
- R Reinforced/Practiced＝発展/強化
- M Mastered＝熟達
- A Assessed＝測定/把握

令和7年度の教育プログラム認定（大学院）について

理事（教育担当）

出口 毅

令和7年度の大学院各研究科等の教育プログラムについては、以下の2つの観点に基づき、全プログラムについて検証作業を行った結果、適切であると判断し、令和7年度の教育プログラムとして認定する。

【観点1】

教育プログラムが、各研究科等のDPやCPに沿ったカリキュラム編成となっているか？

- ・DPやCPに沿った適切なカリキュラム編成であると判断する。

【観点2】

教育プログラムが体系的に編成され、それに沿った開講科目の配置となっているか？

- ・体系的に編成され、適切であると判断する。

【教育プログラム認定の総括】

- ・研究科等の教育プログラム検証作業については、今回で5回目の実施となるが、スムーズに作業を進めることができた。
- ・理事特別補佐からの検証報告を受けて改善点や検討すべき点を各研究科等において再度検討される等、適切に教育プログラムの認定が行われている。
- ・教育プログラムを認定する上で、上記観点1及び2は非常に重要な観点であるが、さらに発展的な視点からプログラムの認定を行うことができるか、引き続き検討していく。

【会議での審議状況】

令和6年11月11日	教育推進機構運営会議（協議）
令和6年11月20日	役員会（協議）
令和7年2月12日	教育研究評議会（報告）

令和7年度の教育プログラムの検証結果について（大学院）

【修士課程・博士前期課程】

研究科	専攻	コース等	観点1	観点2	認定の可否	統括教育ディレクターからの報告等
社会文化創造研究科	社会文化創造専攻	社会文化システムコース	○	○	○	一部の科目における授業目的・到達目標の誤記への指摘に対し、当該箇所を修正した。また、教員減を見据えた対応については、今後、カリキュラムのあり方を議論する時期に検討したい。
		臨床心理学コース	○	○	○	
		芸術・スポーツ科学コース	○	○	○	
理工学研究科	理学専攻		○	○	○	一部の科目に対する入力漏れの項目について、修正・加筆した。
	化学・バイオ工学専攻		○	○	○	
	情報・エレクトロニクス専攻		○	○	○	
	機械システム工学専攻		○	○	○	
	建築・デザイン・マネジメント専攻		○	○	○	
農学研究科	農学専攻		○	○	○	自由記述で意見のあった、カリキュラム・チェックリスト上の科目区分の記載方法及び未記載の科目について、次年度に向けて検討する。
有機材料システム研究科	有機材料システム専攻		○	○	○	前年度履修者数と時間割コードの未記載についての指摘に対し、適切に記載した。
医学系研究科	先進的医科学専攻		○	○	○	（DP達成に向けた習得度示す記号）「A：Assessed：測定/把握」が付いているDPに対応する一部の科目で、前年度履修者数が0名であるとの意見について、今後選択科目群の授業構成について確認し、各コースの指導教員へ履修指導についても確認する。
	看護学専攻		○	○	○	
教育実践研究科	教職実践専攻		○	○	○	

【博士課程・博士後期課程】

研究科	専攻		観点1	観点2	認定の可否	備考
理工学研究科	地球共生圏科学専攻		○	○	○	
理工学研究科	先進工学専攻		○	○	○	
有機材料システム研究科	有機材料システム専攻		○	○	○	前年度履修者数と時間割コードの未記載についての指摘に対し、適切に記載した。
医学系研究科	医学専攻		○	○	○	指摘を受けた一部科目の「授業形態」の空欄箇所について修正した。
	先進的医科学専攻		○	○	○	
	看護学専攻		○	○	○	

カリキュラム・チェックリスト例

教育課程の編成・実施方針 (CP)															学位授与方針 (DP)											
1.高い専門力及び融合力の基となる知識を身に付ける講義科目を編成する。 2.論理的な思考力・記述力、発表・討議の能力、仮説を検証する能力、習得した知識や技能を自在に応用して新たな知見を生み出す能力及び科学者・技術者を巻き込んで研究やプロジェクトを推進する能力を身に付けるために演習科目及び実験科目を編成する。 3.講義科目においては、適宜グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、知識のより深い理解を促す。 4.演習科目及び実験科目では、必要に応じて複数の教員が指導に当たり、専門的な知識を実践的に体得させる。 5.研究の計画の立案及び実施に当たっては、複数の指導教員及びメンターが定期的に指導及び助言を行う。 6.成績評価基準に基づき、厳格な評価を行う。 7.博士後期課程の学位基準に基づき、学位論文を評価する。															1.専門とする工学分野の科学・技術に関する深い知識と技能を身に付けている。 2.科学・技術を発展させる上で必要な論理的な思考力・記述力、発表・討議の能力を身に付けている。 3.社会や科学・技術に関する課題を深く理解し、これを解決するための仮説を検証する能力を身に付けている。 4.専門とは異なる分野の科学・技術に関する知識を身に付けている。 5.習得した知識や技能を自在に応用して新たな知見を生み出す能力を身に付けている。 6.俯瞰的な視野に立って情報を収集し、計画を立案、実施する能力を身に付けている。 7.世界に向けて自らが発見した科学的知見や創生した技術を発信する能力を身に付けている。											
科目区分	NO	授業科目名	単位数	令和4年度履修者数	令和5年度履修者数	時間割コード	授業形態	開講学年	教育課程の編成・実施方針 (CP)							授業の目的	授業の到達目標	学位授与方針 (DP)								
									CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	CP6	CP7			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
基盤科目	1	先進工学基礎	1				講義	通	○	○		○	◎	○		先進工学を専門とする研究者として活躍するために必須の基礎知識を学ぶことを目的とする。	先進工学を専門とする研究者として身に付けなければならない基礎知識を身に付け、必要に応じそれを応用することができる。	○ I	○ I	○ I	○ I	○ I	○ I	○ I		
化学・バイオ工学分野講義科目	2	無機材料工学特論	2				講義	1	◎					○		高実社会で利用されている機能性無機材料や今後活躍が期待される生命無機化学に関する理解を深めることを目的とする。	機能性無機材料の機能発現のメカニズムや生命活動に不可欠な生体物質の生命化学的役割等について、理論に基づき議論することができる。	◎ M	◎ I		○ I					
	3	化学計測・生体情報特論	2				講義	1	◎					○		物質を有効活用する観点に基づき物質や生体が有する情報を取得し、それを解析する方法を学ぶことを目的とする。	物質の分離とそのための分析機器、生体情報の計測とその解析技術、ソフトウェア・AD変換などのラインモニタリング技術を深く理解し、必要に応じてそれらを応用できる。	◎ M	◎ I		○ I					
	4	化学工学特論	2		0		講義	1	○					○		産業分野で重要な分離プロセス、機械操作、材料プロセス、伝熱工学に関する知識を得ることを目的とする。	粉粒体の諸特性と製造工程(装置、条件など)とを関連付け、熱力学的基礎に基づき数値的に計算できる。また、熱媒流体を利用した新たな伝熱促進技術の原理を、伝熱促進技術の基礎に基づき説明できる。	◎ M			○ I	◎ R				
	5	応用物理化学特論	2		4	50104	講義	1	◎					○		界面・表面現象や光イメージングといった物理化学的な現象の工学分野における役割を学ぶことを目的とする。	界面での現象やエネルギーデバイスにおける界面設計、粉体表面の物性およびその測定法、さらに様々な表面処理方法について深い知識を身に付け、必要に応じてそれらを応用できる。	◎ M	○ I		○ I					
	6	有機機能工学特論	2				講義	1	○					○		有機分子設計化学、機能分子化学、ナノ結晶・ナノ粒子、遷移金属触媒反応を取り上げ、種々の機能性有機材料の概説と、機能の発現機構、分子構造と機能制御の関係について論じ、それぞれの解析法、新規な有機材料の分子デザインおよびその合成戦略について解説・議論する。	種々の機能性有機材料の機能、構造解析、分子設計、合成法などに関する深い知識を身に付け、必要に応じてそれを応用することが出来る。ケミカルテクノロジー、ナノテクノロジーの分野における社会的課題についてその解決法を議論できる。化学・バイオ工学分野の論文執筆に必要な論理展開が出来る。	○ M	○ R	○ R	○ I			○ I		
	7	生体有機分子工学特論	2				講義	1	○		○			○		創薬や遺伝子・タンパク質研究に重要な天然物やペプチドの合成、タンパク質の化学的、生物学的な合成、有機化合物と酵素・受容体などのタンパク質との相互作用について概説し、分子設計、評価方法、構造活性相関など生物機能工学の基礎を理解し、それらを用いた最新技術に対する理解を深める。	生体機能物質化学、創薬有機化学、タンパク質工学、遺伝子工学、有機合成化学に関する基礎となる専門知識について述べる事が出来、研究の最新の知見について討議することができる。バイオテクノロジー、ケミカルテクノロジーの分野における社会的課題についてその解決法を議論できる。化学・バイオ工学分野の論文執筆に必要な論理展開が出来る。	○ M	○ R	○ R	○ I			○ I		
	8	バイオ工学特論	2		0	56355	講義	1	○					○		発生・生殖生物学及び細胞生理学を中心とした生命科学の研究分野に関連する重要な生物現象を取り上げ、これら生物現象を解析するための先端計測技術とその応用例を解説する。工学と生命科学の異分野融合研究の意義と重要性を理解する。	各種組織を構成する細胞の特徴を、機能と構造面から説明できる。個体を構成する組織など細胞のつくる社会に関して、細胞・分子レベルで理解することができる。先端計測技術などの工学と生命科学との融合の社会貢献に関して理解を深める。	○ I	○ R	○ R	○ R		○ R	○ I		
	9	医工学特論	2				講義	1	○					○		高度医療において、人工物を生体内に埋入する材料(生体材料)の臨床応用は年々増している。本講義では、高度臨床医療で用いられている生体材料を中心に学ぶ。生体材料の設計指針及び開発状況を基礎から応用に至るまでを学ぶとともに、最新の話題を取り上げ、工学から医学へのアプローチ方法を考える。	1.生体材料の種類を挙げて説明できる。2.材料の適用症例の概略が理解できる。3.生体内での材料の使用方法を説明できる。4.医療機器の構成と使用材料を説明]できる。	○ R		○ M	○ I			○ R		

各科目について、CP及びDPとの関連性を◎○△で表記。

- ◎ DP達成のために、特に重要な事項
○ DP達成のために、重要な事項
△ DP達成のために、望ましい事項

各科目について、以下の習熟度を追記。

- I Introduced＝導入
R Reinforced/Practiced＝発展/強化
M Mastered＝熟達
A Assessed＝測定/把握